

内国勸業博覧会は、国内の産業発展を促進し、魅力ある輸出品育成を目的として明治政府によって開設された勸業博覧会で、第一回は明治10(1877)年、第二回は明治14(1881)年、第三回は明治23(1890)年にいずれも上野公園で開催され、第四回は明治28(1895)年に京都市岡崎町で、第五回は明治36(1903)年に大阪市天王寺で開催されました。



▲楊洲周延画「上野博覧会之図」(三枚続)部分

### 第二回内国勸業博覧会

第二回内国勸業博覧会は、明治14年3月1日～6月30日まで上野公園で開催され、農業館、機械館、美術館などのパビリオンに出品された展示品の数は約33万点。4月の会期中の入場者は82万人を集め大盛況であったといえます。

### 美術館と狸々噴水

第二回博覧会では、寛永寺本坊跡に新しく煉瓦づくり2階建ての美術館(現・東京国立博物館)が建てられました。お雇い外国人でイギリスの建築家ジョサイア・コンドル(1852～1920)の設計



▲小林年光画「上野公園博覧会美術館狸々噴水器之図」部分

によるもので、博覧会終了後は旧東京皇室博物館の本館となり、翌年3月に明治天皇行幸のもと開館式が行われました。この建物は大正12(1923)年の関東大震災で大破してしまっています。

美術館の庭には噴水が造られていました。この噴水は5人の狸々(ねずみ)が酒瓶を担ぎ、そこから水が噴き出すというもので、横浜真葛焼の陶工初代宮川香山(1842～1916)の出品作品「噴水器陶人物錦手」で、3メートルもある大作でした。この噴水は話題となり、美術館と共に多くの錦絵が描かれています。

### 河鍋暁斎の「枯木寒鴉図」

古河出身の絵師河鍋暁斎(1831～1889)は、この博覧会に「枯木寒鴉図」(現・榮太樓總本舗蔵)を出品し妙技二等賞牌を受賞しました。博覧会后、暁斎はこの絵に百円という破格の値段をつけ、周囲から鴉一匹にその値段は高すぎると非難されましたが「これは鴉の値段ではなく長年

の画技修行の価である」と答えたといえます。これに心意気を感じた榮太樓本舗店主細田安兵衛が百円で購入し、その後この絵は「百円鴉」と呼ばれたということですが、このことにより暁斎はさらに画名を高めることになりました。

ちなみに美術館を設計したコンドルは、この年に暁斎に入門し日本画を学んでおり、明治16年に暁斎から暁英の号を受けています。また暁斎は、第一回博覧会の会場を俯瞰した錦絵「東京名所之内上野山内一覽之図」(三枚続)を描き、第二回博覧会についても同じ題名で錦絵(三枚続)を描いています。

昨年は、第二回博覧会開催から140年の節目の年でした。三和資料館では6月5日(日)まで、スポット展示 第二回内国勸業博覧会・河鍋暁斎妙技二等賞牌受賞140年「第二回内国勸業博覧会の錦絵」狸々噴水・美術館を中心に「」を開催中です。ぜひ、ご観覧ください。

三和資料館学芸員 小林 靖

### 【一般書/小説】

にべ屋往来記

村木嵐 著

東海道から身延山道に入った方沢宿にある旅籠・にべ屋。主の智吉は宿を継いで十年が経つ。今日も、にべ屋には厄介事が持ち込まれ…。旅人と宿場の人々が織り成す悲喜こもごも。

出版社…文藝春秋

### 【児童/絵本】

クロベエ

ふくだいわお 作

クロベエの散歩がぼくの仕事。クロベエはもうおじいちゃんだから、歩くのは遅いし困ることもいっぱい。だけど、クロベエといっしょだと色々な発見があるんだ…。老犬クロベエをみつめる男子の心情をユーモラスに描く。

出版社…光村教育図書

## 図書館の本棚から



古河図書館

### 【一般書/随筆】

もういちど、あなたと食べたい  
筒井ともみ 著  
おなががすくと、いつもあの人を思い出す…。

向田邦子、松田優作、樹木希林…。彼らと囲んだ味や匂いは、やがて、名脚本家の肉となり血となった。食でたどる自叙伝。

出版社…新潮社

### 【児童書】

たんじょうびはジェットコースター

こすぎさなえ 作

ぼくは、誕生日に家族でドリームランドに行くのをめちゃめちゃ楽しみにしてた。なのになんで熱でるねん!? ふてくされて寝ているぼくの枕元で、パパは「人生はジェットコースターみたいなもんや」と言い出し…。

出版社…PHP研究所



## もうひとつの空 Another sky



古河市は外国人にとっても優しいまちであり、私の第二の故郷です

Name クルーズ ミシェルさん  
From フィリピン共和国  
Age 36  
Job 英語教師

## My memories in KOGA



平成28年にJETプログラムに参加し、古河中等教育学校のALTとして配属されたことが古河市に来たきっかけです。古河市の花火大会で壮観な色とりどりの花火を見たことと、たくさんの美しい浴衣を着た人たちを見て、日本の文化を感じました。